

## ポスター発表「学級の学び ～日々の保育から～」

渋谷 恵

日常の飼育から関心を広げ「ウサギやモルモットとの触れ合い」につながった事例

### ① 触れ合いタイムが生まれた背景（5歳児）

家庭から

○子どもの姿 ★教師の思い・援助



★学級でカエルになった後のことを話し合い「池に戻す」ことに決まり、A児のお父さんに元の場所に数匹を戻してもらう。夏休み中は担任が近隣の池に放す。その後も関心を向けさせながら学級で見守り続ける。

5月10日A児：オタマジャクシ 16月12日

- A児が家庭からたくさん持ってくる
- 毎日みんなで水槽を囲み「かわいいね」と呟きながら見ている。カエルに成長し、A児は餌として生きているハエを捕まえて入れる。死んでしまったカエルを埋めて手を合わせる。



○7月に入り子ども達は家庭で飼っているクワガタ、スズムシなどを手にして登園する。クワガタの観察ケースの中を見ると、マットがない子もいる。B児はサンショウウオが生きた虫を食べないと悩んで泣く。

7月5日

7月9日

C児：ニホンザリガニ

B児：サンショウウオ

★C児の母が家庭からニホンザリガニの水を運んでくれる。冷たくて綺麗な水が命をつなぐことを知らせる。他園のK先生にサンショウウオの餌のあげ方を聞きB児に伝える。「生きものにとって住みよい」ことを子どもと一緒に考え、周囲の方の協力をもらいながら大切にかかわる方法に気付くようにする。

園や地域の自然から



6月15日

- 園庭でバッタを捕まえた子ども達「まだ小さいね！赤ちゃんだ」と話し合って草むらに返す...



6月26日

- ★事前に捕ったカニは園に戻り小さい組にも見せたら磯浜に返すことを話し合い出掛ける。
- 磯浜でカニを見付けて喜ぶ。近所のおじさんが魚を見付けてくれて大満足する。

そしてまた家庭へ

\*ひまわりノート=家庭との連絡帳

夏頃、\*ひまわりノートでD児は「生き物が欲しい」と訴え、誕生日プレゼントを「金魚」にする。E児は「カメ」をプレゼントに選ぶ。F児は家で飼っているモルモットを幼稚園に連れて行ってみんなと遊びたいと言っている。「先生まるちゃん連れて来ていい？」

秋の学級懇談会でお母さん方に子ども達の生き物に対する興味や関心の高まりと学級で学んでいることの大切さを話す。ウサギやモルモットを園に招く「触れ合いタイム」を実践することに理解を得る。

② 展 開                      ○子どもの姿                      ★教師の思い・援助

11月27日～ 触れ合いタイム 事前の様子

- ◎ねらい ウサギの過ごしやすさを話し合い、友達と迎えることに期待をもつ。
- ★学級でウサギを迎えることを話し、ウサギの体の仕組みや手洗いの大切さを伝える。  
ウサギもみんなも安心して触れ合える場所について話し合い場作りをする。
- ★事前情報として掲示物を貼る。(例：ウサギは追いかけられるのが嫌、骨が弱い...)  
「NHK しぜんとあそぼうウサギ」を視聴する。(狭い所が好き、穴を掘る習性、好物等)



ウサギになりきる                      ウサギの遊び場完成                      糞や食べ物の匂いを感じる                      紙芝居

○ウサギが来ることを喜び、自分達もウサギになって遊んだりパンちゃん(ウサギ)の遊び場を作ったりする。干し草の匂いを嗅いで「お茶の匂いだ」と呟く。糞を見て「小さいね」と呟く。匂いをよく嗅いでみると「あれ？臭くないね」と驚いている。

11月30日 触れ合いタイム1=ウサギ(パンちゃん)

- ◎ねらい パンちゃんの気持ちを想像したり、生きていることを感じたりして触れ合う。
- ウサギが怖がらないように歩く足音をそっと静かにしている。
- ★事前に保護者に参観を呼びかける。(8人中5名参加)
- ★G児とお母さん両方に了解をもらい、G児の心音(拡大心音器使用)をみんなで聞く。「心臓の音は大切なもの」「生きている」ことに思いを巡らせていける場になるようにする。
- G児と先生の心臓の音の違いに気付く。「大きいとゆっくりで、小さいと早いね」



心臓の音が点滅                      側に寄ってきた！                      ニンジン食べた！

- ★ウサギと子ども達、両方にとってよい状態を見極めて進める。
- 「ウサギを抱っこしたい」「みんなで作ったトンネルに入っていく」
- ままだ触れ合いが終了し、心残り。ドキドキしながらのI児は、終わって少しホットしている。
- ★F児にお家で飼っているモルモット(まるちゃん)と学級の友達も仲良く出来そうな事や、幼稚園に連れて来られるかお母さんと相談することを話す。

○ウサギが驚かないように「静かに・ゆっくり」と優しくかかわっている。

★「みんなに慣れてくれたね」「安心したかなあ」と子ども達のかかわり方を受け止めていく。



パンちゃん



事後の活動・描画



～「パンちゃんと自分」 嬉しさが伝わる～



12月10日～ **触れ合いタイム 事前の様子**

◎ねらい 友達と協力してまるちゃんを迎える準備をする。



★まるちゃんの好物(食べ物やおもちや)をF児から教えてもらいながら、触れ合うことを楽しみに出来るようにする。

まるちゃんのゆうえんち 敷物を準備 事前作成：まるちゃんのおもちや

○モルモット用のイチゴがあってウサギにないのはどうして？

★学級でウサギとモルモットの違いを話し合い、生き物の特性に関心が高まるようにすることでまるちゃんに心を寄せていけるようにする。

12月12日 **触れ合いタイム2＝モルモット(まるちゃん)**

◎ねらい まるちゃんの立場になって考えながら関わり、触れ合いを楽しむ。

★事前にF児の母親に学級の子も楽しみにして準備している様子を伝える。まるちゃんが安心してきる場作りの為、家で過ごしているゲージをそのまま運んでもらう。



まるちゃんのリング まるちゃん 早く触りたい 抱っこできた！

★モルモットの心音を聞かせる時は、F児のお母さんにモルモットを抱いてもらう。

○モルモットの心臓の音は凄く早いと感じる。F児の心音よりとても早いと感じる。興味津々。

★前回の様に「心臓の音は大切なもの」、「生きていること」に思いを巡らせるようにする。

○撫でたり抱っこしたりを喜んで、「やわらかいね」「フワフワだ」

○自分達で作ったトンネルに潜ってくれて満足する。

★「お家で飼っている小さいお友達も大切にしてくださいね」と言葉を掛け、愛情や優しい気持ちが深まるようにする。

### ③ 振り返って



・オタマジャクシの飼育や虫捕りなど、日常的に繰り返される小さな命との出会いを大切に、

子どもの生きものに対する感性を引き出すように関わり、心がけた。家庭や地域の方の協力により子どものもつ感性がより鮮明になっていくことを感じた。小動物との触れ合いを通し、喜びや愛情を抱き、時には思い通りにならない困難も感じる経験になった。将来にわたり、子ども自身が命あるものを大切にす

る心を育てていく素地となってくれることを願う。

函館市立戸井幼稚園

書式変更：フォント：(英) MS ゴシック, (日) MS ゴシック